

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔A〕

① 二〇二〇年度に、大学入試制度が変わります。

※ センター試験がなくなり、論述試験が取り入れられるようになり
ます。ゆくゆくは国際バカロレアの教育と連動して、哲学論文を書く
ことになるのではないかと希望的に予想されます。

これからの②国際化時代を生きていくためには、早くから人生・社
会を考え、思索する習慣を身につける必要があります。

みなさんは、幼稚園に通っていたころ、やなせたかしの『アンパン
マンのマーチ』を、大声で歌って育ったのではないのでしょうか。

そうだ うれしいんだ

生きる よろこび

たとえ 胸の傷がいたんでも

なんのために 生まれて

なにをして 生きるのか

こたえられないなんて

そんなのは いやだ！

〔アンパンマンのマーチ〕やなせたかし作詞

『アンパンマンのマーチ』のこの出だしの歌詞を、正確にはおぼえ
ていないかもしれませんが、幼い胸にいただいた、

「なんのために生まれてなにをして生きるのか

こたえられないなんてそんなのはいやだ！」

という精神だけは、今もこころの奥のほうに、ちゃんと収められて
いることでしょう。

知識をどんどん吸収しながら、人生をどう生きてきたらよいかを、理知
的に考える方向へ、日本の学校教育が変わりはじめました。大学入試
が変わり、論述試験が取り入れられることになったのはその第一歩で
す。

フランスでは、一八〇八年に※ナポレオン・ボナパルトが創めた「バ
カロレア」の制度が、時代にあわせて変化しながら、こんにちに至っ
ています。

リセ(高等学校)までの学業をしっかりと終えたかどうかを確認し、確
認されれば、行きたい大学の学生になることができるとい制度です。

その試験は、学識を問う教科試験の前に、人物評価が基本にすえら
れていました。人物評価は、最初は面接試験によっておこなわれてい
ました。それが、受験生がふえるにつれて、「哲学の筆記試験」に変
わり、こんにちまでひきつがれてきています。哲学の筆記試験(論述
試験)は、したがって各教科の試験よりも重視されていて、今では、
初日に四時間かけて論文を書くことになっています。

大学で勉強したい専門分野の基礎学力のほかに、人間として高等教
育を受講できるレベルにあるかどうか、それを判定する試験、それが
バカロレアの哲学の論述試験なのです。

論述と一口にいいますが、これはなまやさしいものではありません。

I、国語の表現が明快で、正確であること。 つぎに、人生のあ
れこれについて、自分の思想をしっかりと持っているかが問われます。
十八歳の成人として、それなりのしっかりと考えた考えを持っていなけ
ればいけないのです。

II、この哲学的見解。それをしっかりと表現することができなけ

ればいけません。これまでの日本の教育(義務教育と中等教育)では「充分じゅうぶんではなかった」「自分の考え・思想」。これを、十八歳なりに持つていなければいけないことになるのです。

フランスでは、各教科の知識があるだけでは、大学生になれません。

日本でもその方向へ、変わろうとしています。

III

課題は多く残されていますが、大学入試が少しずつ変わり、それにあわせて、幼稚園から小学校、中学校、高校までの教育が改革されようとしています。(英語を早くから学ぶのは、その一端いったん。)

フランスのバカロレア制に見習い、国際バカロレアの組織ができました。日本の教育もそれに③足並みを揃えようとする、その第一歩となるかもしれません。

希望の光がほのかに見えてきたといえるでしょう。

幼稚園で、『アン・パンマンのマーチ』を歌い、「なんのために生まれたのか」という疑問を胸にいただいたみなさんは、それを④追キユウし続けるのです。

小学校、中学校、高等学校と、哲学することを通して、一人ひとりが、人真似ひとまねではなく自分の考え、自分の思想を追キユウしていくのです。

将来は、高校から「哲学」が教科に取り入れられ、昔から、哲学者たちが考えてきたことを学び、そして※三段論法による論述の仕方を体得する、そういう流れにもなるのではないのでしょうか。

そこで、哲学する習慣を、早くから身につけるのです。

おそくとも十八歳までに。

まず、哲学するためには、個人として自律し、孤独こどくを選ぶことになります。独りで、人生のすべてにアンテナをはり、理的に考え、自分なりの価値観、生き方にめざめることが大切です。

～ 中 略 ～

十八歳までにこだわるのは、日本もやっとヨーロッパなみに、選挙権あたまが与えられたからです。二〇二二年からは、成人式も十八歳で迎えることになります。

成人してからも、生涯しょうがいずっと哲学する日々を！

二〇二〇年は、明治維新いしんから一世紀半にあたります。

⑤「哲学する」という日本語が、日常語として馴染なじみになることを、切に願っています。

(小島俊明 『ひとりで、考えるー哲学する日々を』 一部改変)

※(文中のことばの意味)

センター試験 : 一九九〇年より導入された大学入試センター試験りやくしやうの略称。各大学の試験に先立ち、全国共通に

行われる。

ナポレオン・ボナパルト : フランスの皇帝こうてい。一七六九～一八二一。三段論法 : 大前提と小前提から結論を導く理論。(例)「植物は生

物である。」「松は植物である。」「故ゆえに松は生物である。」

〔B〕

私は大学の講義のほか、一般向けの講演も行っており、幅広く質問を受ける機会があります。メディアからの取材もあります。そこで、本質的なものに触れる⑥深い質問ができる人、表面的な部分にとらわれた浅い質問しかできない人がいます。

浅い質問には、「それはこうです」と答えて、はいおしまい。簡単です。そこからさらに話が広がったり内容が深まったりすることはあまりありません。

深い質問の場合は、こちらの頭も回転させなければなりません。質問が刺激となつて思考が深まります。その答えによつて質問者の考えも深まるし、実りの多い時間となります。

映画を見た感想やニュースに対するコメントにしても、聞く人が刺激される面白い話ができる人と、みんなが言っているような一般的なことしか言えない人がいます。

浅い人と深い人。どちらの人の話を聞きたいか、聞くまでもありませんね。

では、その浅い・深いはどこから来ているのでしょうか。

それは一言で言えば、⑦教養です。

教養とは、雑学や豆知識のようなものではありません。自分の中に取り込んで統合し、血肉となるような幅広い知識です。

カギとなるのは、物事の「本質」を捉えて理解することです。

バラバラとした知識がたくさんあっても、それを総合的に使いこなすことができないのでは意味がない。単なる「物知り」は「深い人」ではないのです。教養が人格や人生にまで生きている人が「深い人」です。

深い人になるには、読書ほど適したものはありません。本を読むことで知識を深め、思考を深め、人格を深めることができます。

たとえば※西郷隆盛は「深い人」です。西郷が生きた幕末・明治時代から人格者として慕われ、ものすごく人望がありました。亡くなつてからも多くの人が西郷に惹かれて研究し、時代ごとに評価されました。現代も人気は衰えていません。

それでは、生まれたときから人格者で、「深い人」だったのかというと、そういうわけではないでしょう。西郷は多くの本を読んでいました。とくに影響を受けたのは※儒学者※佐藤一斎の『言志四録』です。流された島でも、これを熟読し、とくに心に残った一〇一の言葉抜き出し、常に読み返していたと言います。※座右の銘としていた※「敬天愛人」もそこから生まれたものです。常に本を読み、自らを培つていったのです。

（ 齋藤孝 『読書する人だけがたどり着ける場所』 一部改変 ）

※（文中のことばの意味）

西郷隆盛 … 幕末・維新期の政治家。薩摩藩士。

儒学者 … 孔子に始まる中国古来の政治・道徳の学問を学ぶ者。

佐藤一斎・『言志四録』 … 江戸時代後期の学者。佐藤があらわした書物、随筆集。

座右の銘 … 常に身近に備えて戒めとする格言。

「敬天愛人」 … 「道は天地自然の物にして、人はこれを行うものなれば、天を敬するを目的とす。天は人も我も同一に愛し給うゆえ、我を愛する心をもって人を愛するなり」

問1 ー線①「二〇二〇年度に、大学入試制度が変わります」とありますが、「大学入試制度」はどのようなことを問うために変わると述べられていますか。「A」の文中から二つそれぞれ十五字以内でぬき出しなさい。なお、文末は「くこと」に続くようにすること。

問2 I く III にあてはまることばの組み合わせとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア I はじめに II それから III すでに
- イ I つまり II つぎに III そもそも
- ウ I そして II すなわち III これからも
- エ I まず II また III まだ

問3 ー線②「国際化時代」とはどのような時代ですか。「時間」「空間」ということばを使いながら、あなたのことばで三十〜四十字で説明しなさい。句読点なども字数に数えます。

問4 ー線③「足並みを揃えよう」とありますが、ここでの「足」の意味と同じようにとらえられるものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 車両事故のために多くの通勤・通学の足がうばわれた。
- イ 今日の試合でチームの足を引っぱるエラーをしてしまった。
- ウ 生のお魚は足が早いのでさっそくいただくことにしよう。
- エ 今回の大会は以前勝ったチームに足をすくわれてしまった。

問5 ー線④「追キユウ」の「キユウ」と同じ漢字をふくむ文を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア けたたましいサイレンを鳴らして救キユウ車が通りすぎた。
- イ 父はいきなり走ったので呼キユウが乱れて苦しそうだった。
- ウ 台風の災害にあわれた人々に物資が初めて支キユウされた。
- エ これからの労働条件の改善を要キユウするデモ行進をする。

問6 ー線⑤「哲学する」とありますが、その内容はどのようなものであると述べられていますか。「A」の文中の表現を用いて五十字以内で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問7 ー線⑥「深い質問」とありますが、「A」の文中からこれにあたる部分を二十字以内でぬき出しなさい。

問8 ー線⑦「教養」とありますが、これはどのようなものですか。比喩表現(たとえ)を使わずに「B」の文をふまえて五十字以内で説明しなさい。句読点なども字数に数えます。

問9 小学六年生の龍平くんは学校の授業で聞いた内容について、おじいさん(祖父)と話しています。次の a く c にふさわしいことばを答えなさい。

龍平 今日、学校で先生が「人間というものは、自然界においては、じつは弱い存在なんだよ」と言ったあと、「でも、地球を支配しているのは人間だよ。これはいったいどういうことなのだろう？ 考えてごらん。」と言われたのだけど、ぼくは、人間はほかの動物たちと違って火を使えるようになったからだと思うんだ。おじいちゃんはどう思う？

祖父 たしかに地球上で火を使うことができるのは人間だけだけど、それだけかなあ？ ほかに**a**や文字を使ってコミュニケーションをとったりもするよ。

龍平 おじいちゃん、コミュニケーション能力はイルカやクジラにもあるらしいよ。

祖父 そうか、じゃあ。コンピュータや機械を発明したからかなあ？

龍平 つまり、科学や技術などを生み出す**b**が必要なんだね。

祖父 しかし、その科学や技術をか弱い存在である人間が生み出したのはどうしてなんだい？

龍平 それははじめに考えた人がいたから。

祖父 フランスの哲学者のパスカルという人が書いた本には、「人間は**あし**にすぎない。それは自然の中でもっとも弱いものである。しかし、それは考える**葦**である」と書いているんだよ。葦というのは水辺に生えていて高さ二メートルにもなる、「よし」とも呼ばれる草だよ。夏の日ざしをさえぎるすだれの原料にもなるんだよ。茎の中が空洞だから、すぐポキッと折れてしまうんだ。

龍平 なんで人間が葦なの？

祖父 それは人間が自然界においてはか弱い存在だから、人間を葦にたとえているんだよ。ただ、人間はか弱いだけではなくて、**c**ことができるからこそ、文明を手にすることができたんだよ。

龍平 そうか、すべては**c**ということから始まっていたんだね。

祖父 そうだね。これから成長していく上で、とても大切なことだよ。ただ、そのためには、**ふだん**からさまざまなことに興味をもつことが、もとめられるのかもしれないね。

龍平 ありがとう、おじいちゃん！

問10 文章〔A〕と〔B〕を合わせて読みとれるメッセージを、答えなさい。また、その内容に対して、あなたはこれからの将来に向けてどのような取り組みでいこうと考えますか。次の条件ア～ウに合わせて書きなさい。

条件 … ア 百八十～二百字で書くこと。

イ 二段構成で書くこと。

ウ 一段落目は読みとれるメッセージをまとめ、二段落

目はあなたの将来に向けての考えを書くこと。

これで問題は終わりです。